

★ 共通テスト(1/15・16)まで180日

『3年夏休み』は一生に一度

特別な夏を有効活用せよ

— キミは自主的な勉強をどれだけやれるのか!? —

共通テストまで残り半年となりました。ついに、受験にとって最重要な夏休みの始まりです。3年の夏休みは、大学受験に必要な基礎力の向上にたっぷり時間をかけることができる「最大にして最後のチャンス」というのを肝に銘じてほしいと思います。9月以降は毎週のように模試が行われますから、この時期にしっかり基礎力を高めておくことで、秋以降に成績が伸びていくことでしょう。

徐々に焦りや不安を感じている人も増えてきていると思いますが、現役生は最後まで必ず伸びますから、今は慌てることなくじっと我慢です。まず冷静に自分の頭の中を整理してみましょう。そして、課題を明確にして1つずつ着実に解決していくことに努めましょう。その結果、未来は確実に変化します。

高校3年の夏は、人生選択に大きな影響力をもつ特別な夏です。ぜひ、悔いのないものにしましょう。もちろん、郡山東高校の全教員が3年生の挑戦を全力で応援します。がんばりましょう。

1 自己管理のできる人間になろう

1時間でも多くの勉強時間を確保するのが受験生の鉄則

7月に入り家庭での勉強量も増えてきたことと思います。しかし、まだ十分とは言えません。この夏休みは、何よりも勉強を優先し1時間でも多くの勉強時間を確保するのが受験生の鉄則です。受験生として、今、何をすべきかを意識し、優先順位を考えて時間を使いましょう。最終的に、自分の進路目標を達成できるのは自己管理のできる人です。他人に指示されないと行動できない自分を卒業しましょう。

2 基礎基本の定着を図ろう 9月以降はほぼ毎週が模試

9月からは、全国模試を受験して志望校の合否判定を確認したり、より実戦的な問題演習を行ったりしていくことになります。しかし、その効果を上げるためには、8月の始業日までに、3年7月までの学習内容の「基礎・基本」をしっかり定着させておくことが必要です。

① 模試・考査を徹底復習 過去の試験問題は最高の教材

過去の模試と考査の復習は、最も効果的な学習法の1つです。3年生は、今年だけでもすでに4回の全国模試を受験していますが、それらの問題を、時間をかけじっくり解き直してみることで、模試は、

幅広い範囲から出題され、各単元での重要な部分が厳選されています。また、同じ業者の模試では、基本的に同じ内容の問題は繰り返されないように出題されています。それゆえ、模試の復習は、全科目の単元ごとの重要事項を、短時間に効率よく復習するには最適な方法なのです。

② 教科バランスを重視 『理社』も本格始動！

最終的な合否結果は、全科目の合計点で決まるため、「総合力」の強化が重要です。特定の教科・科目や分野に偏ることなく、「教科(科目)間」と「科目内の分野間」のバランスを考えた幅広い勉強が必要です。また、夏休みからは、英数国の勉強時間に加えて、理科・社会の追い込みを開始すべきです。特に、理系の理科と文系の社会については、共通テストだけでなく国立二次試験や私大入試でも受験科目になっていきますから、重要度がかなり高くなります。

3 大学調べをより詳細に行おう

① 第一志望を簡単にあきらめない

現段階で、第1志望の大学を変更する必要はありません。確かに、自分の実力を自覚することは重要です。しかし、安易に妥協することは、かえって、今後の勉強のモチベーションを下げってしまうことにもつながりかねません。第2志望以下の大学を設定しておくことは、受験生として常識的なことですが、むしろ、今の段階では「第1志望」を大事にし、その思いをエネルギーに変えて勉強する方が、より効果的ではないでしょうか。

② 出願パターンを検討する

本校の12月の三者面談で、国公立大志望者に対し、共通テストの得点に応じた出願先の組合せのパターン(「前期日程」+「後期・中期日程」)を3つ以上設定することになっています。そのためには、あらかじめ、現在の第1志望以外にも、複数の大学(国公立大+私立大)の学習内容や入試方法を確認し、出願先の候補をリストアップしておく必要があります。

私立大志望者についても同様です。難易度に応じた複数の出願先を検討しておくべきです。また、同一の大学でも、さまざまな受験方式・日程が存在しますから、実施要項の確認が必要です。

そして、9月以降の模試では、それらの大学についての合格判定を確認し、最終的な出願校の絞り込みをしていくことになります。

③ 最新の募集要項で情報を入手する

3年生が受験するのは、「令和4年度(2022年度)入試」です。今年度も、国公立、私立ともに、学部・学科の改組や入試科目の変更が行われる大学がたくさんあります。各自、志望する各大学の最新の情報を入手して確認をしておきましょう。

④ 「赤本」で到達目標を確認する

早期に、志望校の赤本を見て、過去の出題内容を確認しましょう。具体的な出題形式、難易度、分量を確認するとともに、将来的に自分の到達すべき学力レベルと現在の実力との「差」を正しく認識しておくが目的です。その「差」を埋めるために勉強をしていくのです。また、入試問題は大学からのメッセージです。どんな学力が求められているのかが分かれば、勉強の具体的な目標が明確になるのです。



特集

2021年入試の分析結果報告

全国の高校の入試結果データをもとにした2021年度入試の分析結果が発表され、実態が明らかになってきました。以下は、ベネッセ主催の「2021年度入試結果研究会」で報告された分析結果から引用し要約したものです。



1 全体概況

① 国公立大では『理高文低』傾向あり

私立大では文系・理系ともに志願者数減少

2021年度入試では、国公立大では「理高文低」傾向が見られ、私立大では文系・理系ともに志願者数が減少しました。また、国公立大、私立大ともに新型コロナウイルス感染症拡大の影響が見られており、海外渡航が制限されることへの懸念などから、特に、語学、国際関係学系統で志願者数の減少が目立ちました。同様に、観光学系の志願者数が減少しています。一方で、医学・薬学などの医療関係の系統の人気傾向になっていて、「資格志向」の高まりが見られます。

近年人気が続いていた情報系統は全体的に見ると、人気に落ち着きが見られました。ただし、理系人気の影響もあり、全体的に志願者数が減少する中でも、工学部の情報工学は国公立大、私立大ともに前年並の高さとなっています。

② 国公立大後期日程の欠席率が連続上昇 **62.2%!**

2021年の国公立大の「後期日程の欠席率」は62.2%と、9連続で前年を上回っています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、例年以上に受験機会を絞り、私立大の合格が決まった段階で早期に進学先を決定する動きが強まったことで、高い欠席率になったと考えられます。ゆえに、国公立大志望者は、前期日程で不合格となってもあきらめず、後期日程まで受験を続けることができれば、合格のチャンスが広がるのです。ぜひ、東高生には後期日程までしっかりやり切ってほしいと願います。

③ 私立大は一般選抜の志願者数が減少

私立大学の志願者数は長く続いた増加傾向から、2020年度入試から減少に転じ、2021年入試も減少が続いています。受験人口の減少に加え、新型コロナウイルス感染症拡大への懸念により、出願校数を絞る受験生も多かったことも要因と考えられます。特に、小規模な大学ほど志願者数が減少している傾向にあるようです。入試方式別にみると、一般方式の志願者数の対前年指数は83、共通テスト方式の志願者数は対前年指数90といずれも減少しました。

④ 総合型(A0)・学校推薦型選抜による合格者数が増加

国立大では総合型・学校推薦型選抜の定員の拡大が着実に進んで、国公立大の入学者の約20%がこれらの方式で入学しています。今後も募集人員の30%まで増える見込みです。

また、国公立大、私立大ともに、総合型選抜による合格者数が増加しました。私立大では従来の推薦入試を総合型選抜に変更する大学も多く、募集人員、志願者数は減少しましたが、合格者数は前年並となりました。また、総合型選抜は募集人員、志願者数、合格者数はいずれも大きく増加しました。総合型、学校推薦型選抜を合算しても、志願者数が前年並なのに合格者数は増加したのが特徴的でした。

2 2021年度「共通テスト」の全体集計結果

① 文・理ともに5教科総合(900点)平均点が上昇

文系：552点(+4点) 理系：572点(+13点)

共通テストの実施前は、思考力重視の問題作成に切り替わるということから、大幅に平均点が低下すると予測されていました。しかし、データネット委員会が推定した得点調整後の5教科総合(900点満点)の平均点は、文系が552点(得点率約61%)、理系が572点(得点率約64%)と、かなり高いものとなりました。前年の最後のセンター試験と比較すると、文系では+4点、理系は+13点と、どちらも上昇しました。

② 公民と専門理科で受験後に『得点調整』を実施

科目別の平均点では、数学ⅡB(+10.9点)、数学ⅠA(+5.8点)、生物(+15.1点)、倫理(+6.6点)などで平均点が大きく上昇しました。一方で、地理B(-6.3点)、化学基礎(-3.6点)、生物基礎(-2.9点)で平均点が低下しました。

倫理と化学の平均点が、それぞれ同一教科内の現代社会、生物と20点以上の差が開いたため、公民で最大8点、専門理科で最大9点の「得点調整(加点)」が実施されました。

3 学部系統別の志望動向 (志願者数の対前年比較)

○ 人文科学系統

国公立大は2021年入試では減少しました。私立大ではここ数年、高止まりが続いていましたが、2021年入試では大幅に減少しました。

○ 法学系統

国公立大では志願者数がやや増加しました。私立大では減少傾向が続いています。

○ 経済・経営系統

国公立、私立大ともに、2020入試以降は減少傾向が続いています。

○ 国際関係学系統

国公立大では、2020年入試までは増加傾向でしたが、2021入試は大きく減少しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、国をまたぐ人の移動が制限される中、将来像を描きづらくなったことが要因の1つと考えられます。

○ 教員養成系・教育学系

国公立大は減少傾向が続いています。私立大も2020入試以降は減少傾向が続いています。

○ 保健衛生学系統

国公立大は2020年入試で減少しましたが、2021年入試では前年並となりました。

○ 薬学系統

国公立大では2021年入試では増加しました。私立大では減少傾向が続いています。

○ 工学系統

国公立大では過去6年間大きな変化はありません。私立大は2021年入試では大幅に減少しました。学科別では、機械工学は国公立大、私立大ともに減少しましたが、国公立大においては、電気・電子・通信工学、建築・土木・環境工学がともに前年比120と大幅に増加しました。

○ 農・水産学系

国公立大では減少傾向が続いています。私立大も減少傾向にあります。